

特集

Pan African Heritage Museum

パン・アフリカン・ヘリテージ博物館



04 パン・アフリカン・ヘリテージ博物館 PAN AFRICAN HERITAGE MUSEUM

06 新しいアフリカの話
NEW AFRICA NARRATIVE

08 アフリカ豆知識
FACTS ABOUT AFRICA

10 アフリカのファッション
AFRICAN FASHION

12 アフリカの食文化
AFRICAN FOOD CULTURE

14 ダンス・ウィズ・アフリカ
DANCE WITH AFRICA

16 アフリカの若い職業人によるアフリカ・ビジョン
YOUNG AFRICAN PROFESSIONAL VISION FOR AFRICA

18 ナミビアの経済成長と持続可能な水産業の発展を支援
SUPPORTING ECONOMIC GROWTH AND DEVELOPEMENT OF SUSTAINABLE FISHING INDUSTRY IN NAMIBIA



千葉 隆政
宮城県経済商工観光部長

お祝いの言葉

アフリカと宮城を繋ぐ架け橋となるAfriMagの創刊、誠におめでとうございます。アフリカは食やファッションをはじめとして多様な文化の花咲く地域であり、雄大な自然に恵まれた豊かな大陸です。また、近年のアフリカの発展は目覚ましく、投資やビジネスパートナーシップなどの経済交流のポテンシャルも秘めています。県内にも、アフリカ各国出身のたくさんの方々が生活されており、多様な社会の一部を形作っております。県では、国籍や民族の異なる方々が、互いの文化的背景の違いを認め合い、いきいきと活躍できる多文化共生社会の形成に向けた取り組みを進めているところです。日本ではまだ十分に知られていないアフリカの生活様式、食べ物、音楽、ファッションなど、アフリカの様々な魅力を発信する本誌は、宮城、ひいては東北の人々にアフリカのことをより身近に感じてもらえる入口になると確信しており、県が目指す多文化共生社会の形成に寄与するものと期待しています。本誌をきっかけに、アフリカ出身の皆様と県民との交流が一層盛んになるとともに、経済的なパートナーシップを含めた宮城県とアフリカの繋がりが一層強くなり、互いが手を取りあって明るい未来を共に創っていく関係になることを願っています。

ご挨拶

皆さんこんにちは、アフリカの情報誌「AfriMag」を手にとっていただき、ありがとうございます。私は、宮城県および東北地方に住むアフリカ人の友好団体「宮城アフリカ協会 (AFAM)」（東北大学を中心とした大学生・大学院生約83名を含む）の会長、アスィードゥ・アイザック・ヤウと申します。

アフリカといえば、何を思い浮かべますか？ キリマンジャロ、ライオンやシマウマなどの野生動物、それともエジプトのピラミッド？ 私が生まれたガーナの首都アクラは、日本から約14,000km離れています。皆さんはどんな場所を想像しますか？ 仙台市と同じように大きな港があり、人口が200万人を超える大都会です。残念ながら、ライオンが歩いているわけではありませんが(笑)。実は、アフリカの国々は21世紀に入ってから大きく発展しています。まだまだ発展途上の地域もありますが、最先端の科学技術で大きく変わろうとしています。もちろん、豊かな自然環境も健在です。ファッションや料理、リズム感溢れる音楽も日本とは少し違います。そんなアフリカの魅力の数々を、アフリカ人の視点でご紹介したいと思います。



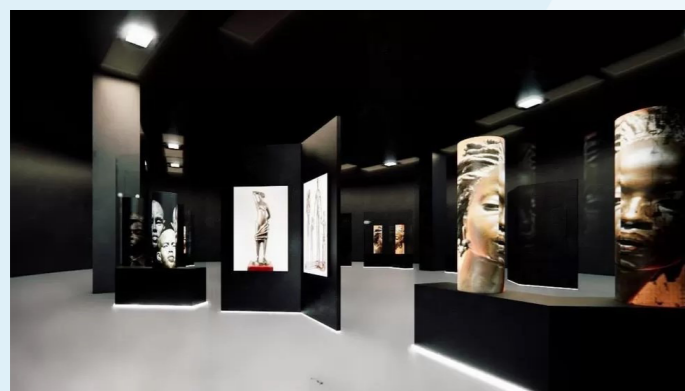
アスィードゥ・アイザック・ヤウ
宮城アフリカ協会代表



特集

パン・アフリカン・ヘリテージ博物館

ガーナでは2023年中に完成予定の巨大博物館の建設準備が進められています。この博物館は、外国人ではなくアフリカ人が自らの歴史と遺産を管理し表現するものとなるでしょう。パン・アフリカン・ヘリテージ博物館は、アフリカにルーツをもつ人々あるいはそうでない人々が、人類の起源から今日までのアフリカの真の歴史、文化、文明を一から学び直す環境を作り出すでしょう。



ケニアやタンザニアのマサイ、ナミビアのヒンバ、「アフリカの角」のソマリ、南アフリカのズールー、西コンゴ盆地のンベンガ、そのほか数多くの共同体は、ガーナのこの新しいふるさとに戻ってくることになるかもしれません。

アフリカ内部における最も大きな移住は4000年以上前に始まりました。そのころとても多くのバンツー語話者が、居住地があった南西アフリカを離れアフリカ大陸の他地域へ移り住んだのです。

今度の移住は反対の方向で行われることになります。かつての先駆者たちのように、ビザも旅行のための書類も必要としません。この新しい移住は物理的なものではなく文化的・精神的なものです。それら移住者の歴史、哲学、信仰、物語が、新たな家を見つけようとしています。

この新しい住居はウィネバのポマゼ・ヒルズに位置しています。10エーカーの敷地がガーナの中心地域、首都アクラから西に60キロ(40マイル)のところにあります。この敷地では緑に覆われたゆるやかな起伏が目を引きまします。もし全てが計画通りに進めば、今年の8月までに6階建ての堂々とした建物がここにできるはずで、それがパン・アフリカン・ヘリテージ博物館です。ウィネバをへて「移住者」たちはガーナの新たな家に入っていきましょう。ウィネバから車で一時間ほどにはケープ・コースト城の「戻らずの扉」があります。この扉を通じて、何百万ものアフリカ人たちがこの大陸を離れ、奴隷状態に陥るよう強いられたのです。

この建設中の博物館の主な目的として、アフリカ人の声、道具、文化を用いながらアフリカの物語を作りまた語ることがあります。

このプロジェクトの背景にいる偉大な知識人たちは、長きにわたってアフリカの物語が他者によって語られてきたからこそ、このプロジェクトが必要なのだと考えています。

あなたの物語が誰か別の人によって語られると、それはその人にとって都合のいい視点から語られることとなります。この博物館がアフリカの物語を我がものとしようするのはそのためです。この博物館の創設者たちがアフリカにルーツをもつ人々の間に400年以上かけてひろがった「ギャップ」と呼ぶものに橋を架けることで、これは達成されます。

ガーナの大統領であるナナ・アクフォ＝アドは、この博物館が「わたしたちの大陸に根をもつ全ての文化的遺産に、ふさわしい住居、安住の地を提供する。それらの文化的遺産は今外国の博物館にあるが、いずれわたしたちに返却されるだろう」と語っています。

これはアフリカ大陸で建てられる最新の博物館で、セネガル、コンゴ民主共和国そしてナイジェリアのそれに続くものです。植民地時代にアフリカから接収した品々を返還しなければならないという考えがヨーロッパでますます受け入れられるようになってきた時期に、この博物館が登場することになります。

最近公開された電子版から分かるように、この博物館の魅力的な建築は高くそびえ、遠くからでも目につくものになるでしょう。それはまさにパン・アフリカニズムの記念碑となるものです。

この博物館は教え、癒し、インスピレーションを与える博物館なのです。

博物館に入ると、アフリカにルーツをもつ偉大な芸術家の手になる美しいコンテンポラリー・アート作品を目にすることでしょう。静かなサクソフォーンのサウンドとそれを伴奏する優しいピアノの音があなたを心地よくさせます。パン・アフリカン博物館にアフリカ文化を集め、それを展示し、また保存・活用をすることを通じて、アフリカの集団的アイデンティティと歴史に光をあてるのです。このアイディアは1994年ごろに現れましたが、その背後にいたのはコジョ・アクア・ヤンカです。彼はガーナの新聞デイリー・グラフィック紙の元編集者であり、故ジェリー・ローリング大統領の政府で議員・閣僚を務めた人物でした。



コジョ・ヤンカ閣下
パン・アフリカン・ヘリテージ博物館創設者



新しいアフリカの話



男も女も、アフリカの若者たちの中には、極貧あるいは希望のない境遇から脱して、極楽という場所にたどり着いたという話がたくさんあります。開発途上国の大陸では、皆いつかは生まれ変わりたいという永遠の夢に駆られるからです。計画性のない空間利用や公德心の欠如で、無秩序がまかり通っています。その結果がもたらすものは、退廃と都市部の過密です。が多くの人々が自然と接して暮らしている農村部でも変わりありません。

それにもかかわらず、アフリカは他の大陸に暮らす人々からは羨望的となっています。アフリカは、広大な鉱物資源を持っているという歴史があり、安定した赤道下の環境、そして限りなく種類のある動植物があります。特異な地球文化的な言語と生活スタイルの多様性、生活、伝統的な地域間交易路、近代的な市場、商業の相乗効果、そして成長が始まったばかりの情報通信技術の特区、これらは成長の可能性を秘めたいわば万華鏡の様相を呈しています。

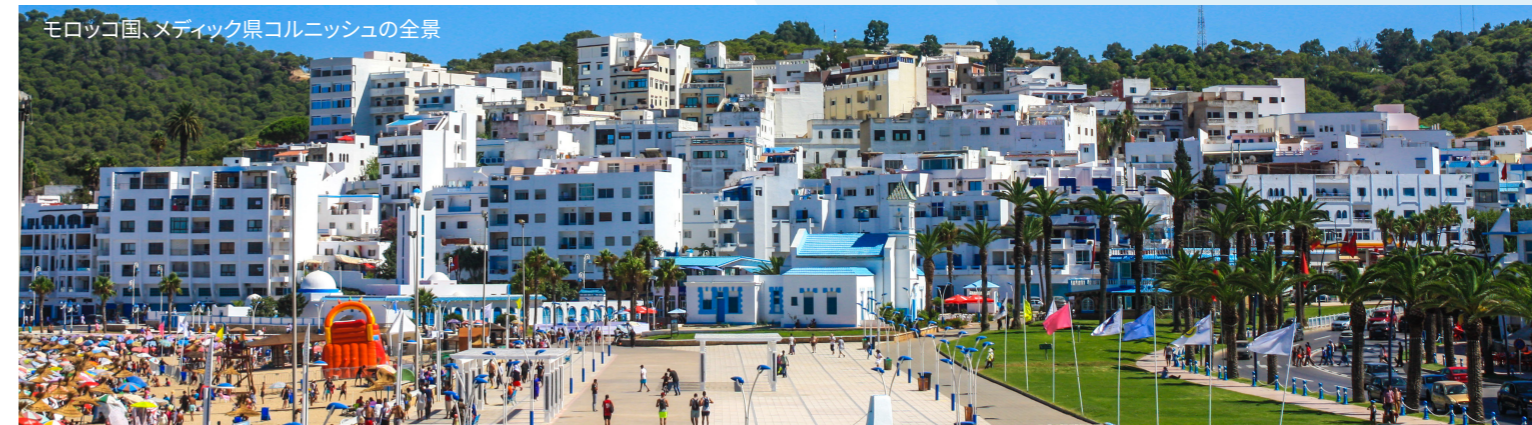
ですが、アフリカのイメージは西洋社会により単一の物語として語られ、アフリカの評価は劣っているとされていました。

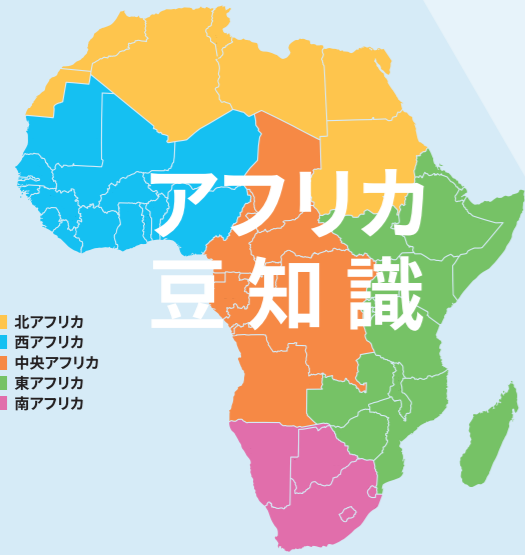
単一的なイメージではなく、万華鏡のような新しいアフリカをぜひ知ってください。



Visit Morocco

モロッコはアフリカの玄関口ですし、目が回るような多様性の国です。ダイナミックな景観、カラフルな建築物と活気あふれる都市群のバランスが優れているモロッコには魅力が多くあります。毎年、世界中から一千万人を超える観光客が行き先のトップにモロッコを選ぶのは不思議なことではありません。息を呑むような美しさの海岸、賑わいを見せる青空市場、広大に広がる砂漠、切り立った雪を頂く山々、素晴らしい旧市街地、食欲をそそる料理、モロッコには驚くべき世界があります。世界の中でもこれほど多くの変化に富み、興味を引き付け、文化的体験を味わうことのできる観光地はそう多くはないのです。あなたがどのような旅行者であれ、モロッコには野生あふれる冒険旅行から、曲がりくねった路地、ホッとできる雰囲気の中にある海岸の入り口に至るまで、あなたを引き付けるものがあります。モロッコには百もの顔と音があります。これらは皆、刺激と冒険を求めている旅行者を待っています。





- 北アフリカ
- 西アフリカ
- 中央アフリカ
- 東アフリカ
- 南アフリカ

1. アフリカは面積、人口においても世界で2番目に大きな大陸です。



2022年には総人口が全世界人口の約**16.72%**に当たる**13億4千59万8千147人**となりました。

3. 世界の文明はアフリカから始まりました。



古代エジプトの歴史は**紀元前3000年前**にさかのぼりファラオ(王)文明では既に文字の読み書きがされていました。

5. 世界で一番背が高い動物も、一番大きな動物も、アフリカ出身です。



2. アフリカでは**1500以上の異なる言語**が10億人以上の人々によって話されています。世界中の言語の4つに1つがアフリカのみで話されています。



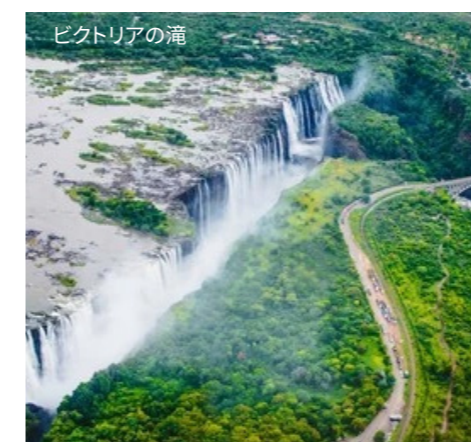
4. アフリカは、経度0度の本初子午線と緯度0度の赤道が通っていて、世界の最も真ん中に位置しています。



アフリカの見どころ

アフリカはいつも旅行者が行ってみたい旅先リストに入っているとは限りませんが、一度行ってみれば古代と現代、野生と都会、東と西の文化の融合に感動することでしょう。今回はその中の数カ所をご紹介します。

アフリカ大陸において最も人気のある旅先の一つであるケープタウンは、大西洋とインド洋が交わる喜望峰(the Cape of Good Hope)に近い南アフリカの南端に位置しています。一歩足を踏み入れた途端に美しく文化にも富んだこの素晴らしい街が大好きになることでしょう。テーブルマウンテン(Table Mountain)は街の中心からそびえ立ち、美しい白浜から見る壮大な12人の弟子の峰(Twelve Apostle rock formations)は目を見張るものがあります。



ビクトリアの滝は世界最大級の水のカーテンで、1.7キロの長さがあり107メートル下の渓谷に急落する様は一見の価値があります。



キリマンジャロはアフリカ最高峰で海拔約5895メートルに位置します。ナショナルジオグラフィック誌によれば全世界で最も高い単独の山です。



アッサル湖は海拔マイナス150メートルに位置する休火山と黒い溶岩に囲まれた原生湖です。

アフリカのファッション

アフリカの衣装は、鮮やかな色の服地から抽象的な刺繍をほどこした服、そしてカラフルなビーズを使ったプレスレットからネックレスに至るまで様々です。数多くのアフリカの服のデザインがあり、あらゆる体型に対応します。また、数多くの布地がアフリカの衣装をデザインするために使われます。たとえば、西アフリカの多くの国々には、長い間、織ったり、染めたり、プリントされたりしてきた服地でできた、特色のある衣装があります。ガーナの伝統的な衣装であるケンテの場合、それに使われている色合いは、それぞれに意味があります。青は調和と愛、緑は実り、金は富を表しています。

アンカラのスタイル

アンカラのスタイルは、アフリカの伝統的な衣装を現代風にアレンジしたもので、アフリカの衣装の中でも最も美しくそして人気があります。アンカラの製品の原料はオールコットンですし、バティックと呼ばれるろうけつ染めを使った色とりどりの模様はとても魅力的です。アンカラのファッションは場所と場合に合わせたスタイルにすることが可能です。教会や結婚式でのスタイル、仕事着、赤いカーペット、デート着、いろいろなスタイルに、好きなように組み替えることができます。



アンカラスタイルの一例



アフリカの食文化

食の多様性はアフリカ大陸の特徴の一つです。アフリカの食文化は様々な文化の影響と各国々の特徴が混じり合って形成された固有の文化です。

アフリカの食文化は変化し続けていますが、元来の材料や作り方が特に田舎では今も残っています。

ファンティ・ファンティを一緒に作ってみましょう。

ファンティ・ファンティはガーナの中部地域でよく食される新鮮な魚を使ったシチューで、ガーナの人々はこのシンプルな料理が大好きです。



QRコードをスキャンすると
作り方のビデオが見れます



ファンティ・ファンティ

材料(4人分)

お好みのシーフード
(※新鮮なお魚、エビ、イカなど)
※お魚はたらなど白身魚がお勧めです。

| | |
|----------|---------|
| 生姜チューブ | 小さじ1 |
| にんにくチューブ | 小さじ1 |
| トマト | 大2個 |
| 玉ねぎ | 1個 |
| やし油 | 大さじ5 |
| マギーブイヨン | 1-2キューブ |
| 塩と胡椒 | 適量 |
| 赤パプリカ | 1個 |
| 黄色パプリカ | 1個 |

作り方

- 【Step 1】 シーフードを洗って食べやすいサイズに切る。
- 【Step 2】 玉ねぎとトマトをミキサーにかけペースト状にする。
- 【Step 3】 やし油を中火にかけ、2の野菜と生姜、にんにくペーストを加える。
- 【Step 4】 1分位炒めた後、マギーブイヨンと塩、胡椒を加える。シーフードを加えて約10分煮込む。
※煮込み過ぎないように注意し、他の調味料は加えず味つけはシンプルにした方が美味しく出来上がります。
- 【Step 5】 赤と黄色のパプリカを添える。
- 【Step 6】 茹でたじゃがいもやご飯と一緒にいただきます。

DANCE

WITH AFRICA

アフリカの文化遺産は、そのほとんどがダンスの文化や伝統に表されています。アフリカのどの地域でも、太鼓、歌、踊りは、その民族を表現するアイデンティティの形です。衣装や化粧、ほか身につけることのできる芸術も含まれます。

アフリカでは、誕生、結婚、死、戴冠式、族長就任、祈願、儀式を祝うために踊られます。お祭りでは、豊かな伝統的衣装を身にまとった踊りが彩を添えます。



アフリカ、特にサハラ砂漠より南の地域では、アフリカの酋長たちは観客や見る人にメッセージを伝えるために特別な方法で踊ります。音楽によって、というより、身体と魂に突き動かされたコミュニケーションです。ガーナのアシャンティ族長は、民衆のために踊ることで、王族の美德を示し、祖先を称えます。



アフリカの若い 職業人による アフリカ・ビジョン

若いアフリカ人にとって、歴史上これほどよい時代はありませんでした。わたしたちが生きている時代は機会に満ちています。アフリカの若い職業人たちは、そのスキルと経験を通して、さらに若い世代のアフリカ人を励ましています。アフリカについての話題の焦点は、貧困から創造性、ビジネス、投資といったものにすこずつ移行しつつあります。宮城アフリカ協会 (AFAM) は東北大学と協力しつつ、2022年8月21日にウェビナーを開催して東北大学の115周年を祝いました。東北大学を卒業したアフリカの若い職業人たちがスピーカーとして招かれ、「アフリカ出身の卒業生によるアフリカ・ヴィジョン」というテーマに基づいて話をしました。

AFRICAN ALUMNI VISION FOR AFRICA



法律家でありまたガーナにあるガーナ・グリッド社の弁護士代理であるセルマ・アウンビラ氏が最初のプレゼンテーションを行いました。彼女は東北大学大学院国際文化研究科において、国際環境資源政策の分野で修士号を取得しました。彼女のアフリカ・ヴィジョンは、貿易を通じて統一される大陸というもので、今日孤立主義が伸長するなかで、国境を越えた協働のモデルとなり得るものです。彼女はアフリカ大陸自由貿易地域 (AfCFTA) が世界貿易機構 (WTO) の設立以来もっとも大きな自由貿易地域になると予想しています。アフリカ連合のメンバーである55か国すべてを包含するこの地域は、増加しつつある中流階級を含む12億人以上の市場と合計2.6兆ドルのGDPをカバーするものです。



ナイジェリアのアクレにある連邦技術大学の講師であるエマニュエル・イエスヨン・ダンス博士が二番目のプレゼンテーションを行いました。彼は東北大学大学院情報科学研究科で数理生物学の博士号を取得しました。彼のアフリカ・ヴィジョンは、アクレの連邦技術大学と東北大学の関係を強めるというものです。彼は東北大学のFuture Global Leadershipプログラムや交換プログラムがアフリカにも広げられることを望んでいます。彼は積極性を持ったアフリカ人と仕事をし、アフリカの諸問題にアフリカ的解決を与えることを進めようと強く望んでいます。彼はまた、アフリカと他の地域の間が存在している、お互いの知識のギャップを埋めたいと希望しています。



三番目のプレゼンテーションを行ったハムザ・アブデリ博士は、イギリスのケンブリッジにあるシリコン・マイクログラビティのMEMSデザインおよび開発エンジニアです。彼は東北大学で工学の修士号と博士号を取得しました。「結び、考え、インスピレーションを与え、経験を共有する」が彼のアフリカ・ヴィジョンにおける四つの柱です。彼はインスピレーションを与えるスピーチやワークショップを企画することで、アフリカの若い世代の才能を発掘し方向付けたいと考えています。彼はいまブーメルド、ボルディ・ブー・アレリディ、オランといったアルジェリアの諸大学でセミナーを企画しようとしています。



四番目のプレゼンテーションを行ったジャマイマ・キビラ氏は、ケニアのアフリカ女性健康基金の執行委員です。彼女は東北大学では緩和ケア看護学の分野で修士号を取得しました。彼女のアフリカ・ヴィジョンは、農業、技術、女性活躍の諸分野で、奉仕・貢献し、解決をもたらそうとするというものです。

ダイナミックな歩みを共有しようとするこれらの卒業生たちに、聴衆は注意深く耳を傾けていました。

ナミビアにおける持続可能な漁業の経済成長と発展を支援する



日本の漁業会社であるカネダイ株式会社は、本社が気仙沼にあり、漁業、水産、エネルギー事業に従事し、ナミビアの経済成長と持続可能な漁業の発展を支援しています。同社のアフリカでの最初の事業参加は、1973年に同じ業界の2社と協力してモザンビークでカニ漁を開始したときでした。その後、漁場の変化、2度のオイルショック、漁船の座礁などを経験しながらも、カネダイ社は事業を継続しています。



現在、同社はナミビア共和国で一年中カニ漁を行っており、地元市民に大量の雇用を提供しています。東日本大震災後、同社は「かに物語」ブランドを立ち上げ、ナミビア産の「まるずわいがに」を原材料として国内外の顧客に販売し、一部を加工して日本のレストランや海外の顧客に商業製品として販売しています。

ナミビアの漁業産業は同社の中核事業になりつつあり、信頼できる地元パートナーに恵まれ、50年近く企業活動と社会貢献を通じて地域の長期的な発展に貢献することに注力してきました。

カネダイ社の佐藤俊介社長は、将来の漁業産業の持続性を確保するために、豊かな自然環境と漁場を保護しながら、ナミビアや他のアフリカ諸国の地元パートナーと共に発展を続けたいと述べています。





AfriMagは宮城アフリカ協会 (AFAM) によって出版されています。AFAMは宮城県内で広く認められた団体であり、宮城県のアフリカ人に関わるすべての関係機関と協力関係にあります。私たちは、アフリカ開発に関する公開セミナーやパフォーマンス、地域社会での奉仕活動など、アフリカの価値観や文化を促進するイベントや活動を行っています。

東北地方の大学に留学するアフリカ人留学生を歓迎し、彼らの定着を支援しています。JICAなどの機関や地元企業と協力して、アフリカ開発に関する公開セミナーや留学生のためのスタディーツアーを開催しています。

地方自治体や市役所・区役所が開催するイベントに積極的に参加しています。老人ホームを訪問し、アフリカの価値観を伝えるために歌やダンスを通じて高齢者との交流を行っています。

私たちは、イベントや公開セミナーなどを通じて、宮城県だけでなく東北地方全体の国際化構想に貢献する主体となることを使命としています。現在、東北地方の大学に学ぶアフリカ人留学生を含め、AFAMは東北地方のすべてのアフリカ人とネットワークを結ぶ協同組織としての役割を果たしています。

私たちは市民活動に参加し、地方自治体や団体と協力して、アフリカの価値観や文化に対する日本社会の理解を深め、東北地方の創造的な活動を支援します。



contact.afam@afam-org.com

SPONSORS OF THIS MAGAZINE

MIA 公益財団法人宮城県国際化協会
未来の東北博覧会記念国際交流基金助成金事業



みやぎ生協



株式会社カネダイ



ボーダレス株式会社

本雑誌はダウンロード可

PDF版はこちら

afam-org.com/afriMag/

